

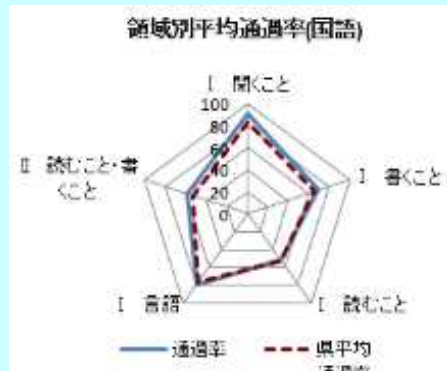
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校71.8%, 県68.0%) 対県比 105%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率

設問ごとの平均通過率



A問題	B問題
本校 71.0%	本校 57.0%
全国 74.8%	全国 57.5%
県 77.0%	県 61.0%

主として「基礎・基本」定着状況調査について国語科では、タイプⅠの平均通過率は74.8%で60%を超えており、基礎的・基本的内容は概ね定着している。タイプⅡについては平均通過率が58.2%で60%を下回っており、教科で復習した知識技能を日常生活などの場面に活用する力に課題がある。また領域別でみると、「読むこと」のみ県平均を下回っており、課題である。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

107%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(三5②) (32.8%)

場面の移り変わりに注意しながら、叙述を基にして登場人物の気持ちを捉え、その変化の理由を説明することに課題がある。登場人物の行為を根拠として気持ちを想像できる気持ちを書いていない児童が21.9%いる。

【課題2】(五3-情報) (39.1%)

目的や必要に応じて情報を取り出し、それらに関係付けて書くことに課題がある。「家でもできる練習方法があるよ!」の中から、上半身を起こすために必要な練習を取り出し、関連付けて考えることができていない児童が28.1%いる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(B3二) (12.8%)

自分の考えを広げたり深めたりするために、話し合い活動の中で、相手の発言の意図を的確に捉えることに課題がある。「ア」に「1」と正答できている児童が29.5% (県通過率36.2%) である。

【課題2】(B2三) (33.3%)

目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くことに課題がある。依頼文を書くことや条件を満たすように書くことに慣れていない。

※今後の改善計画は別紙

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (45%) 実施後数値 (%)

登場人物の気持ちを捉えるために、物語全体を通して登場人物の気持ちが分かる行動描写や会話などに印をつけたり線を引いたりし、それらを根拠としながら気持ちを想像する学習活動を展開する。また、低学年の段階から、登場人物の行動など、根拠となる叙述を明確にしなが想像を広げて読むことができるように指導する。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 (%)

新聞記事を書く時などに、取材した複数の内容の中から目的や意図に応じて伝えたい情報を取り出す学習を行う。その際に、常に自分の伝えたいことに立ち返らせることで、目的意識をもって取捨選択するようにさせる。また、モデルに従って記述する学習を積み重ね、記述する力を高める。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (40%) 実施後数値 (%)

物語文を読んで感想を伝え合う中で、共通点や相違点を明らかにしながら交流する機会を授業の中に取り入れる。その際に、相手の根拠を明確にするための質問をしたり、自分の理解が正しいかどうかを確かめるための質問をしたり等、互いに補完し合うことによって、自分の考えを広げられるようにする。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 (%)

複数の資料から必要な情報を収集し、事実と意見を区別しながら必要な内容を整理して書く学習を展開する。モデルを示して係活動の協力を依頼する文章を書いたり、条件を満たして書いたりしながら経験を積む。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校78.9%、県74.3%）

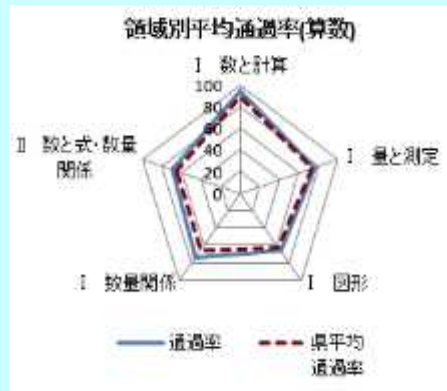
対県比 106%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率

設問ごとの平均通過率



A問題	B問題
本校 74.0%	本校 45.0%
全国 78.6%	全国 45.9%
県 81.0%	県 47.0%

主として「基礎・基本」定着状況調査において算数科では、本校の通過率は78.9%で県の通過率を上回っており、全体的には概ね定着が図られている。特に昨年度より課題であった「量と測定」領域は、県平均に比べ昨年度は0.6ポイント上回っていたが、今年度は2.4ポイント上回った。しかし、他領域と比べると県平均との差が最も少なく、引き続き取り組みを進めていく必要がある。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 108%

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(10-2) (29.7%)

問題文の条件を的確に捉え、グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を言葉や数を用いて説明することに課題がある。グラフの目盛りの幅に関することのみを理由として書いた児童が34.4%いる。

【課題2】(7) (56.3%)

作図に用いられている図形の特徴や性質を理解することに課題がある。また、コンパスは円を描く道具であるということだけにとらわれ、等しい長さを測るためのものであるという基本の捉えが十分定着していない。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(B5-2) (10.3%)

身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を的確に判断しその判断の理由を記述することに課題がある。番号は選択して解答しているが、無解答の児童が70.5%いる。

【課題2】(B3-2) (21.8%)

仮の平均を用いた考え方を解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することに課題がある。7mを基準にした記述の誤答が23.1%で、問題把握が出来ていない。

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(40%) 実施後数値(%)

問題文から何を問われているのか条件を的確に読み取れるように、キーワードに印をつけて読む習慣を日常的に意識して取り組み、身に付けさせる。また、複数の折れ線グラフを提示し、目盛りの大きさに留意して正確に数値を読み取る活動や、目的に応じて適切に目盛りの大きさを決めて表現する活動を行う。

【課題2】目標値(60%) 実施後数値(%)

図形学習を行う際には、多様な図形の作図方法について、図形のどの特徴を利用しているかについて明確にしながらか学習を進める。具体物を用いて実際に計測したり、作図方法を友達に説明し合ったり、なぜその方法で作図ができるかということの説明させたりする活動を通して、実感を伴った理解を深める場を設ける。また、コンパスは円を描くだけでなく、等しい長さを測り取ることができる道具であることを体感させる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(30%) 実施後数値(%)

示された情報と場面から、基準量と比較量、割合を図に表すことでの確に関係を捉えられるようにする。さらに、図を解釈して演算決定をしたり、説明したりする活動を行う。日常の〇%増量の場面を捉える等、基準量と比較量、割合が身近に感じられ、生活に活かされる学習を展開する。

【課題2】目標値(40%) 実施後数値(%)

仮の平均を用いて考えることの利便性を実感させるために、理科の実験結果や新体力テストの結果を用いて実際に仮の平均を用いて求める活動を行い、理解を図る。

※今後の改善計画は別紙

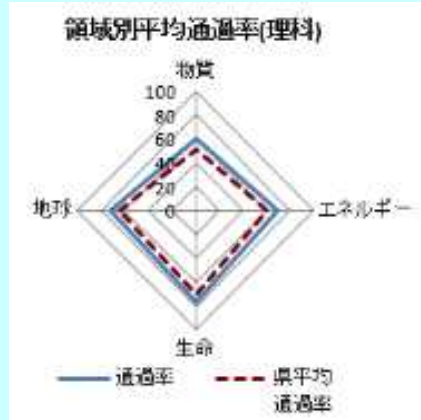
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校69.7%, 県61.7%)

対県比

113%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



「基礎・基本」定着状況調査結果において理科では、どの領域においても、県の平均通過率を上回っている。しかし、タイプごとに詳細に分析すると、「エネルギー」「生命」の2領域についてはタイプIとIIの通過率の差があまり見られないが、「物質」「地球」の2領域では、タイプIとIIの通過率の差が大きい。基礎的な知識は習得していても、それらを活用して記述することがまだ十分ではない。具体的には、現象に対し、なぜそうなるのか、あるいはその結果どうなるのかといった論理的思考ができていない児童が多くみられるということである。その原因として、実際に明確な意図や目的意識をもった観察・実験が、十分に実施できていないことが挙げられる。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(1-(2)) (4.7%)

空気銃の前玉が飛ぶ理由を検証するための実験道具について説明することに課題が見られる。問題場面から情報を的確に取り出し、既知の概念と結び付けて説明するという力につまずきが見られる。

【課題2】(5-(1)) (34.4%)

虫眼鏡の正しい使い方が身に付けておらず、観察・実験の技能において課題が見られる。児童が観察・実験を行う際に、なぜそのように使うのかといった理由を感じ、明確な意図をもって観察・実験に取り組む学習が少ないことが要因として考えられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (20%) 実施後数値 ()%

児童自らが発見した課題に対して、観察・実験の計画を立て、条件を整理しながら実験を行い、結果を考察して課題解決を図るといった問題解決的な授業展開を行う。その中で、理解した内容を筋道立てて記述する学習活動を1単元に1回以上取り入れ、論理的に記述する力を高める。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 ()%

教師の演示実験だけでなく、児童一人一人が実験にかかわれるような理科室や理科準備室の環境整備を行う。さらに、児童を小グループに分ける等、できるだけ多くの児童が実験に参加できるような学習形態や授業展開の工夫を行う。

※今後の改善計画については別紙